

発表者 真先 薫

テーマ 「地域に生まれ、やがて地域を担う子どもたち」

このたび、中野区教育委員候補者に応募いたしました真先薫でございます。よろしくお願ひいたします。

私が発表いたしますテーマは「地域に生まれ、やがて地域を担う子どもたち」です。このテーマは、もう1つのテーマと同じように幅が広いといひますか奥が深いといひますか、なかなか難しいと思ひますけれども、私自身がこのテーマにつきましてどのように考えているのかということをお意見として発表させていただきますと思ひます。

まず、このテーマで「地域」という言葉が2回出てまいりますけれども、地域とはどこかということですが、多くの場合、大部分の場合は私たちの生活基盤であります中野区内ということになるのだらうと思ひますが、家庭であったり、学校であったり、地域であったりということになるのでしょうか、時としまして、例えば、子どもたちが競技会で中野区外に出るということも多々あらうかと思ひます。また、修学旅行等で海外に行くということもあるのだらうと思ひます。そうしますと、そういう場所におきまして中野区の延長といひますか、地域の一部と考えてもいいのかなと思ひます。

次に、育まれるのは子どもたちということなのですが、育むのは誰なのかということでございます。これもまた多くの場合、家庭における家族であったり、学校における先生、あるいは職員の方ということになるかと思ひますが、時には中野区で働く人々、あるいは中野区外であっても、例えば海外渡航などした場合には、海外の方ですら育んでいただくことになるのだらうかなと思ひます。

また、そういった個別の人ではなくて、例えば、会社であったり、工場であったり、そういった地域といひますか、団体、組織であっても育んでいただけますし、また、山とか川とか海とか、そういった自然も子どもたちの健全な育成に力を貸してくれるものと思っております。

そして、その育まれる子どもたちについて考えてみますと、多くの場合、中野区内に住む子どもたちということになるのだらうでしょう。加えて言えば、中野区内の学校に通う子どもたちという人たちもその中に入るのかなと思ひます。

しかし、場合によっては他府県から来る子どもたち、あるいは海外から来る子どもたち、こういった人たちについても、子どもたちという概念の中に入れていってもいいのかなと思っております。

さらにどのようにして育んでいくのかということでございますが、これはいろいろな場面、いろいろな機会、様々な方法があるのだらうと思ひます。

最終的にといたしますか、結果的にはその地域を担う子どもたちになっていただきたい。そのためには、そうした機会、場面、方法については、学校とか家庭とかだけではなくて、多くの方々と相談しながら、また協力や支援を得ながら実施していくことになるのだらうと思います。

そして、地域を担うとはどういうことなのでしょう。中野区内で働く、あるいは、中野区のために活動をする。さらには中野区も含めた東京都で働くとか、日本全国、世界を舞台として活躍するということも、それが地域を担うことにつながっていくのかなと思います。

しかしながら、全ての子どもたちがそうなるとは限りません。育まれ損なったといたしますか、育まれなかった子どもたちというものもどうしても出てまいります。そうした子どもたちに対する手当、配慮、そういうものも必要でしょうし、そもそもそういった子を少しでも出さない方策を事前に考えておくことが必要だらうと思います。

その場合、子どもたち本人に目を向けるというのは当然のことですけれども、場合によってはその子を取り巻く家庭であったり、地域であったり、そういったところにも気を配ることが必要だらうと思います。そのためには、中野区内、内外のいろいろな方々のいろいろな団体のお力もお借りすることが必要だらうと思います。

そのようにして、中野区の育む力、それを確かなものといえますか、より強固なものにしていただいて、中野区で生まれた子どもたちが地域を担ってくればいいなと思っております。

最後になりますけれども、そうしたいろいろな施策をやるにしましても、子どもたちの安心安全が大前提です。

以上で終わります。

区 長 ありがとうございます。地域で子どもが育つということで、いろいろな人が地域の人たちの目で見守られながら子どもが育つというのはやはり一番大事だなと、それは地域の責任だなと思っているわけですが、逆に、青少年の健全育成という点で、今の中野ではなくて日本の小中学校の教育で課題があるとしたらどこにありますか。

真 先 そうですね。私が一番気になっているのは、やはりいじめです。では、そのいじめの根っこは何かといいますと、いろいろなその事情、理由があるのだらうと思います。社会環境であったり、家庭環境であったり、いろいろあるのだらうと思いますけれども、やはりそのいじめがあることによって、結果的にいじめた子が悪

くなるだけでなく、いじめられた子も悪くなってしまう。悪くなるというのは、必ずしも犯罪や非行を犯すという意味ではありませんけれども、何と言いますか、本来発揮できる能力が発揮できない状況になってしまうということでございます。

それだけではないと思いますけれども、私が一番気になっているのは、そのいじめの問題です。

区 長 どうやったらいじめはなくせるでしょうか。

真 先 これは難しいです。私たちが子どもの時もやはり、今ほど何と言いますかひどくはなかったかもしれませんが、自然といじめ、いじめられてきました。ですから、それが、やはり誰かに見られているという感覚です。それがやはり私たちの場合、子どものころにはあったと思います。その誰かに見られているというのは、家族であったり、先生であったり、地域であったりすると思いますけれども、要するに無関心でない状況、それを作っていないかなければならないのだろうなと思います。

区 長 お話を聞いていて思ったのは、やはり大人の世界でもいじめはありますからね。結局、我々の社会の鏡が学校でもそのまま起きているのかなというふうに思います。ありがとうございました。